

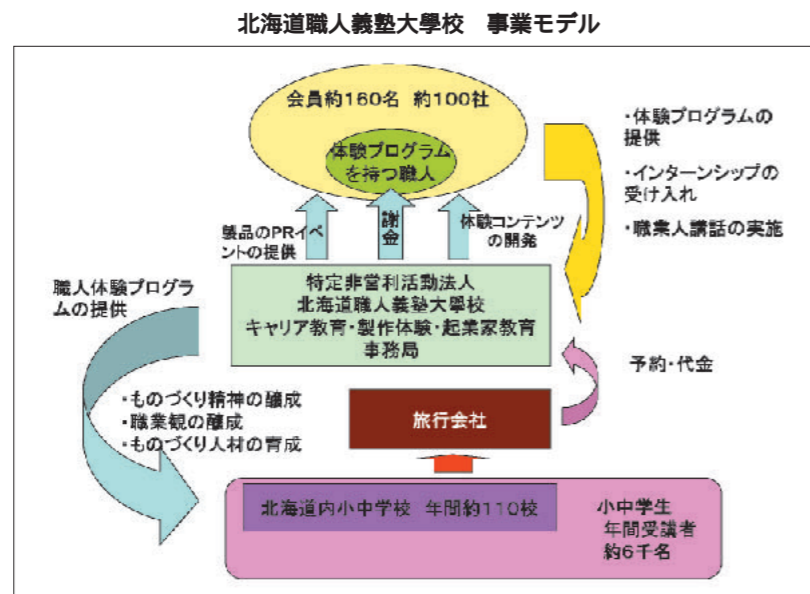
～職人の技を次世代に伝える～

特徴・ポイント

- ・修学・研修旅行のリピーターの存在、旅行代理店への知名度が高くビジネスとしての自立度が高い
- ・職人の価値を見出し、職人に経済的な支援を提供すると同時に、仕事の認知度の向上、後継者発掘、教育機会への参加という複数の意義を与えた点
- ・異業種職人のネットワークと職人の意識変革のノウハウ

事業概要

職人による技能・知識の教育、訓練の場を提供する事業を運営。具体的には、職人塾の運営による職人子弟の育成、教育事業、と職人体験学習事業を主に実施している。



契機

当初は、地域における零細の職人業を支援しようという問題意識から活動を始めている。共同で販路を拡大するために職人展を開催しながら世の中への認知度を向上していった。はじめは人前で仕事することに躊躇していた職人も、顧客からの面白いという反響や、また実際に注文につながる等の経験を経て参加意欲が高まっていった。

職人展を中心とした活動をしていく中で、徐々に職人が抱えている種々の問題が明らかになってきた。その一つが「後継者問題」であった。

この問題意識を核とし、「地域の技能を地域の子供に」というコンセプトでNPO法人北海道職人義塾大學校が出来上がった。

修学旅行生をターゲットに

活動を開始するにあたり、ボランティアではなく、いくらかの謝金をもらいながら、子ども達を対象にした職人学校を開くモデルとした。しかし地元の小樽の学校は予算がなく難しいため、他の地域からくる修学旅行生をターゲットとしていった。現在はこれがメインの収益事業になっている。

収益上の工夫としては、価格設定を90分間1,500円とした点である。他の観光事業者の体験コースは30分間で3,000円クラスであり、それよりも安い設定とした。価格はどの職人や業種でも統一料金である。こうしたことで、申し込む人にとっての煩雑さを軽減した。

職人に対しては、1,500円の価値に見合うものを提供するように依頼していった。

コミュニティビジネスとしては教育旅行にターゲットを絞ったが、他事業としては、キャリア教育のコーディネーターで小樽の小学生に対する職業の紹介や仕事体験、中学生に対してはインターンシップの実施を行っている。中学生が自分で製品の企画もつくり、職人に提案する。そして職人と工房で一定期間を過ごす。職人には事前、事後の生徒のフォローもお願いし、教育効果を確認している。

営業活動については、主に口コミで広がっていき、旅行会社からも仕事ができるようになった。現在、年間約6,000人、学校数で約110校へのサービス提供を行っている。



子供たちに職人の技を伝える

職人の技を効果的に伝えるには

参加する職人を増やすためには、まず、第一に職人の現場に足を運び、コンテンツを見つけることである。現場で発見できることは多く、現場を回ることによってコンテンツの母数を増やしてきた。これはというものを見つければ、「これ面白いよ、見せようよ」と職人に働きかけ参加を促した。現場は技の宝庫だった。その気にさせるポイントとしては、職人の技を意識的に取り上げていく点である。例えば、仏壇作りの職人に仏壇を単純に作ってもらうのではなく、漆ぬり、金箔塗りなどの特定の技を取り上げ意識してもらうことで、職人も自信を持ち、見てもらうべきものや技が明確になった。

一方で、「見せる」ための職人への指導も行ってきた。調査をしたところ、経年で見ると、喋りが上手い人が継続で受注できることが分かった。喋りの上手い人のポイントは、自分の仕事は何か、技は何か、どれくらいで技が身につくのかなどをきちんと子供に説明をしていることであった。更に、自分の技や仕事について、学校の勉強に絡めるなどきちんと教育的な意味をつけてあげることが出来ている人に人気もあり、指名を受けていることが分かった。そこで、コミュニケーションが苦手、不足をしている職人に対しては、それらの点をアドバイスしてあげることによって、コミュニケーションの改善を図っていった。

このように職人の方へのアドバイスを行う一方で職人に対しても意識変革を迫っている。「作る」よりも「見せる」ことが仕事であり、職人たちには決して片手間ではなく本業と同じように取り組むようにと働きかけている。

今後の目標

今後は、職人を目指す若者を親方にマッチングする、後継者育成のための紹介をもっと行いたいとの意欲をもっている。実際には、何人が弟子入りにトライしたが、挫折や、自立が出来ないなどの問題が起き、なかなか成功は難しいようである。まず独自の起業家教育プログラムであるキッズベンチャー教室などで幼少時から職業や商売の面白さなどを伝えていき、体験授業などで底辺を広げてゆく取組が必要と考えている。

団体名：特定非営利活動法人 北海道職人義塾大學校
 代表者 佐々木 徹
 住 所：北海道小樽市
 ホームページ：http://blog.canpan.info/meister/